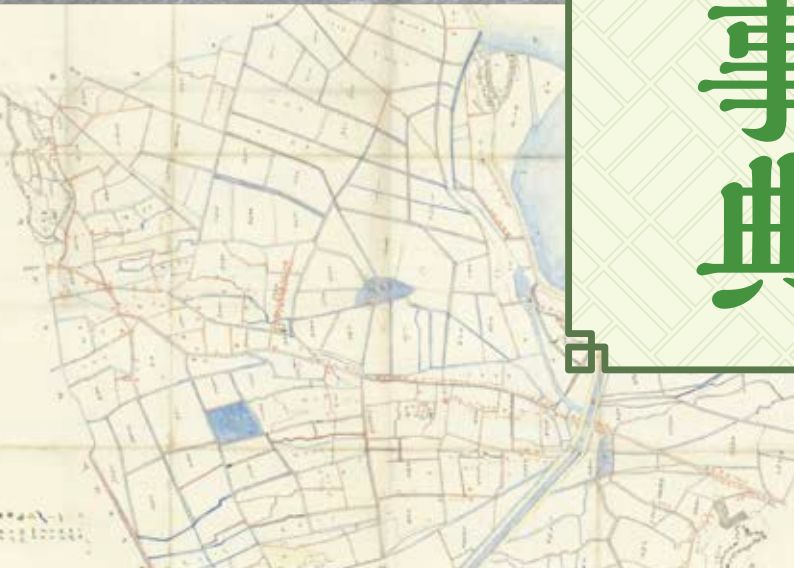
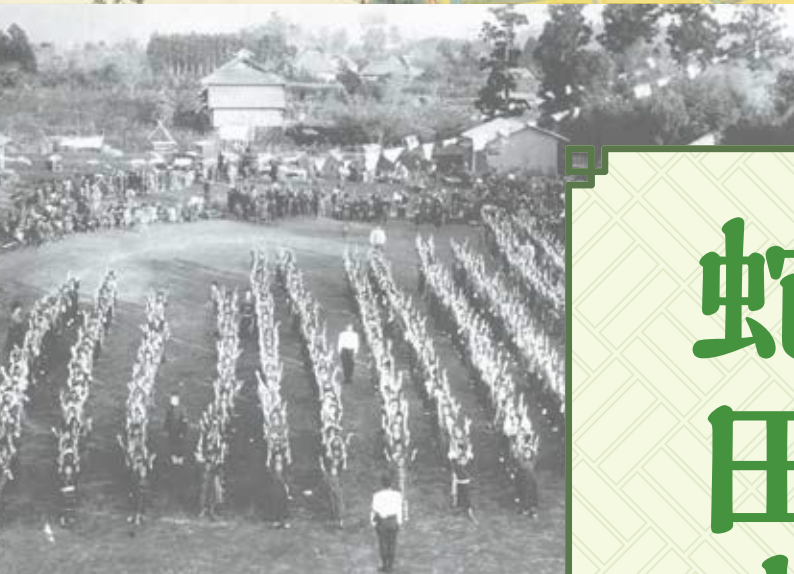




# 蛇田事典

写真と地図で見る歴史



## 石巻地方歴史年表

367(仁徳55)年 ―― 上毛野田道将軍が伊寺水門で戦死  
749(天平勝宝元)年― 小田郡産金の黄金900両献上  
753(天平勝宝5)年― 陸奥国牡鹿郡の人丸子豊島ら24人は牡鹿連の姓を賜る  
758(天平宝字2)年― 桃生城造営  
774(宝龜5)年 ―― 蝦夷が桃生城を侵略  
797(延暦16)年 ―― 坂上田村麻呂が征夷大將軍に任ぜられる  
859(貞観元)年 ―― 鹿島御児神社の初見  
927(延長5)年 ―― 牡鹿十座、零羊崎神社・拝幣志神社・**曾波神社・鳥屋神社**・鹿島御児神社・飯石大島神社が記載される  
  
1339(延元4)年 ―― 後醍醐天皇崩御・湊に吉野先帝菩提碑建立  
1363(正平18)年 ―― 牧山に両峰山梅溪寺開山  
1511(永正8)年 ―― 葛西宗清軍が遠遼島本吉經由で七尾城攻める  
1563(永禄6)年 ―― 葛西兄弟が牧山で戦い梅溪寺焼失  
1570(元亀元)年 ―― 湊に日輪山多福院が開山  
1573(天正元)年 ―― 室町幕府滅亡  
1589(天正17)年 ―― 「石巻」の初見(葛西氏黒印状)  
伊達政宗が黒川城入城  
1590(天正18)年 ―― 伊達政宗が小田原参陣、葛西氏大崎氏滅亡、旧葛西家臣笹町但馬2貫文を拝領  
1591(天正19)年 ―― 伊達政宗が米沢(74万石)から旧葛西大崎領に国替え・岩出山居城、旧葛西家臣高橋美濃らが鹿又開墾役となる  
1593(文禄2)年 ―― 伊達政宗軍名護屋参陣・宮城郡高城浜から48艘で上京  
1594(文禄3)年 ―― 伊達政宗が朝鮮渡海し帰国、御召船頭を勤めた阿部十郎兵衛土佐が政宗より拝領した軍配团扇を日和山の愛宕神社に奉納  
1595(文禄4)年 ―― 仙台領金山奉行は松阪徳右エ門が奉行見分役  
1597(慶長2)年 ―― 木曳堀開削・川村孫兵衛が仙台に入る？  
1598(慶長3)年 ―― 川村孫兵衛が軍用鉄を岩出山と大坂へ豊臣秀吉死去  
1599(慶長4)年 ―― 牡鹿郡に大綱(定置網)の初見  
1600(慶長5)年 ―― 関ヶ原合戦、伊達軍が会津攻めで白石城攻撃、葛西大崎船止日記に「いしの満き」と「湊」に各15艘の船あり  
1601(慶長6)年 ―― 仙台大橋架橋、高清水の米穀を河川を使い気仙郡に輸送  
1602(慶長7)年 ―― 伊達政宗が城下を岩出山から仙台に移転  
1603(慶長8)年 ―― 茂庭周防が松山に移住、江戸幕府成立  
1604(慶長9)年 ―― 伊達政宗石巻巡視、桃浦御飯屋、五大堂完成、白石宗直が登米移住  
1605(慶長10)年 ―― 亘理元宗重宗が涌谷移住、慶長検地、相模土手築堤(～1610年)  
1611(慶長16)年 ―― 玉山金山(陸前高田市)で140万両を産金、ビスカイノがミヤト(湊)来訪、慶長地震津波で大被害  
1613(慶長18)年 ―― 慶長遣欧使節がサンファン号で月浦出帆  
1614(慶長19)年 ―― 伊達政宗の子・伊達秀宗が宇和島藩10万石を与えられる  
1615(元和元)年 ―― 大坂夏の役で豊臣家滅亡  
門脇に紫雲山西光寺が開山  
1616(元和2)年 ―― 川村孫兵衛が迫川・江合川・北上川の三川合流工事に着手  
1620(元和6)年 ―― 支倉常長が帰国、江戸廻米の始まり  
1621(元和7)年 ―― 石巻地方で金山発見  
1622(元和8)年 ―― 仙台藩が石巻村に御蔵建設、米谷喜右衛門を積込役人に登用、縄張大明神勧進  
1623(元和9)年 ―― 川村孫兵衛重吉が北上川改修工事に着手(～1626年)

1626(寛永3)年 ―― 流留村の菊地與惣右衛門が塩田開田  
石巻港開港、仙台藩が諸国入込御免(移住政策)を発令  
1627(寛永4)年 ―― 湊村で160戸焼失の大火  
1631(寛永8)年 ―― **牡鹿郡「へびた」と「かどのわき」の初見(伊達氏黒印状)**  
石巻港から江戸廻米が継続的に始まる  
1632(寛永9)年 ―― **蛇田村山下に桂林山禪昌寺が開山**  
1633(寛永10)年 ―― 湊村鹿妻の松本兼満が石巻村中町に移住、仙台藩石高 62万石余  
1634(寛永11)年 ―― 明石の助太郎(造船の祖)が湊村に移住  
1635(寛永12)年 ―― 伊達政宗が没する、行年70歳  
1636(寛永13)年 ―― 中村庄右衛門が仙台藩御座船棟梁兼船横目棟梁を拝命  
1637(寛永14)年 ―― 仙台藩が藩主御座船鳳凰丸を建造  
1639(寛永16)年 ―― 牡鹿郡に石巻代官所開設  
1640(寛永17)年 ―― 石巻村に菩提山永嚴寺を開山  
1642(寛永19)年 ―― 仙台藩が住吉御蔵建築、海石山寿福寺を伊勢堂山下に移し開山、南部藩が門脇御蔵建築  
1645(正保2)年 ―― 笹町氏が湊村牧山に鷲峰山長禪寺を開山  
1646(正保3)年 ―― 伊達忠宗が万石浦と命名  
1649(慶安2)年 ―― 門脇村釜に大鈎山普誓寺を開山  
1650(慶安3)年 ―― 住吉に古渡山広済寺が開山  
1657(明暦3)年 ―― 湊村に長嘯山慈恩院が開山  
1658(万治元)年 ―― 門脇村に念行山称法寺が開山  
1659(万治2)年 ―― 仙台藩主遍塞し隠居、四代藩主亀千代が継封  
1660(万治3)年 ―― 広瀨沼溜池着工～1665年竣工  
1662(寛文2)年 ―― **蛇田村の愛宕山東雲寺が現在地に移転**  
1663(寛文3)年 ―― 門脇村に善海明神宮を造営  
1664(寛文4)年 ―― **蛇田村蛇田町が開町**  
1666(寛文6)年 ―― 仙台藩土佐原安成が北上川に築堤  
1672(寛文12)年 ―― 門脇村釜の仙台藩士らが浜須賀波除土手大道に松植樹  
1677(延宝5)年 ―― 中村助太郎が湊村から門脇村中町に移住  
1678(延宝6)年 ―― 仙台藩の江戸廻米が33.3万石の最大を記録  
1684(貞享元)年 ―― 八戸藩が石巻村に八戸御蔵建築  
1686(貞享3)年 ―― 松尾芭蕉と河合曾良が石巻村に一宿  
1689(元禄2)年 ―― 遠山帯刀が湊村に2千石拝領  
1690(元禄3)年 ―― 門脇村に濡仏を建立  
1697(元禄10)年 ―― 「牡鹿郡萬御改書上」作成される  
1698(元禄11)年 ―― 石巻村に法音山久円寺が開山  
1700(元禄13)年 ―― 仙台藩が好日山海門寺を開山  
1709(宝永6)年 ―― 石巻村に仙台藩鋳銭場建設、翌年から寛永通宝を鑄造開始  
1727(享保12)年 ―― 鹿島御児神社が日和山山麓より現在地に遷座  
1735(享保20)年 ―― ロシア船3隻が長渡浜に停泊  
1736(元文元)年 ―― 仙台藩石高 101万 9953石余(仙台藩出入司職鑑)  
1744(延享元)年 ―― **蛇田町から出火307軒の大火**  
1753(宝暦3)年 ―― 仙台藩石高 102万 1831石余(仙台藩古伝秘要)  
1754(宝暦4)年 ―― 渡波御塩蔵から出火4万余俵を焼失  
1755(宝暦5)年 ―― 宝暦の飢饉発生、～13年まで続く  
1756(宝暦6)年 ―― 明和風土記門脇村人口 2703人・湊村人口 2929人  
1766(明和3)年 ―― 仙台藩が海門寺で海難供養者の施餓鬼を命じる  
1772(安永元)年 ―― 仙台藩が安永風土記書出を記す  
1773(安永2)年 ―― 天明の飢饉 56万石の減収  
1783(天明3)年 ―― 仙台藩人口 41万人余と最小を記録  
1788(天明8)年 ―― 石巻村米沢屋の若宮丸がアリユーション列島に漂着  
1793(寛政5)年 ――

1804(文化4)年 ―― 若宮丸乗組員4人が世界一周で長崎に帰国  
1810(文化7)年 ―― 石巻廻船問屋が大坂の住吉大社に常夜灯献納  
1818(文化15)年 ―― 石巻村に立町が開町  
1834(天保5)年 ―― 天保の飢饉、～天保14年まで続く  
1836(天保7)年 ―― 大凶作で仙台藩減収高が最大の 91万石余  
1849(嘉永2)年 ―― 凶作で減収高 82万石余  
1852(嘉永5)年 ―― 吉田松陰が石巻村を訪問  
1855(安政2)年 ―― 米国測量船が石巻港門脇に寄港  
1868(慶応4)年 ―― 戊辰戦争で奥羽越列藩同盟の仙台藩などが降伏  
1869(明治2)年 ―― 桃生県から石巻県と改称  
1872(明治5)年 ―― 桃生牡鹿本吉栗原登米遠田志田仙台県を合わせて宮城県となる  
1873(明治6)年 ―― 門脇村に共立社病院石巻分局を開設・村ごとにに小学校開校  
1876(明治9)年 ―― 大久保利通内務卿が石巻視察、金華山燈台点燈、現在の宮城県の行政区が確定  
1878(明治11)年 ―― 野蒜築港工事に着手  
1879(明治12)年 ―― 北上川に初の蒸気船が就航  
1880(明治13)年 ―― 牡鹿原開墾事業始まる、北上川低水路工事始まる  
1881(明治14)年 ―― 石巻港に救難団体援覆社が創設、**北上運河開削**、有栖川宮が石巻視察  
1882(明治15)年 ―― 北上川に東・西内海橋が架橋、野蒜内港が鳴瀬川河口に完成  
1884(明治17)年 ―― 野蒜内港突堤が台風で崩壊し計画挫折  
1885(明治18)年 ―― 日本郵船会社石巻支店を開設  
1887(明治20)年 ―― 本町大火で市街の南半分を焼失、東北本線上野～仙台間開通、野蒜測候所が石巻村に移転  
1888(明治21)年 ―― 一府九県水産共進会が石巻村中瀬で開催  
1889(明治22)年 ―― 石巻村・湊村・門脇村の3村で石巻町制施行  
1893(明治26)年 ―― 石巻運送合資会社が石巻町本町に設立  
1896(明治29)年 ―― 福清の大火で市街の北半分を焼失  
1897(明治30)年 ―― 牡鹿郡立簡易水産学校(現宮城水産高)が湊田町で開校  
1902(明治35)年 ―― 牡鹿郡立模範製糸工場一誠館が湊田町に開設  
1906(明治39)年 ―― 牡鹿郡立簡易水産学校が渡波町に移転  
1907(明治40)年 ―― 石巻町に電話が設置される  
1911(明治44)年 ―― 石巻町に電灯が灯る  
1912(大正元)年 ―― 仙北軽便鉄道が小牛田～石巻間に開通  
1915(大正4)年 ―― 日和山・住吉公園が開園、牡鹿軌道(株)が湊～渡波間に開通  
1916(大正5)年 ―― 川開きまつり始まる。湊小学校が鉄筋コンクリート校舎として完成  
1923(大正12)年 ―― 県立石巻中学校(現石巻高)が石巻町門脇に開校  
1925(大正14)年 ―― 皇太子殿下ご成婚記念グランドが日和山に完成  
1926(大正15)年 ―― 金華山軌道(株)が石巻町湊～女川町間まで延長開通  
1928(昭和3)年 ―― **宮城電鉄(現仙石線)が小野～石巻間開通で全線開通**  
1929(昭和4)年 ―― (株)石巻魚市場が湊地区に開設  
1933(昭和8)年 ―― 三陸地震津波、石巻市制施行、上水道完成、内海橋が鉄筋コンクリート橋として完成  
1935(昭和10)年 ―― (株)石巻魚市場が門脇に第2魚市場を開設、門脇に南地歓楽街開設  
1937(昭和12)年 ―― 中国大陸で日中戦争が始まる、宮城県漁業無線通信所が門脇に開局

1939(昭和14)年 ―― 石巻線が女川駅まで延伸、金華山軌道(株)が廃止  
1940(昭和15)年 ―― 東北振興パルプ石巻工場が操業開始  
1945(昭和20)年 ―― 連合軍機が矢本・石巻・女川を空襲  
1947(昭和22)年 ―― 教育改革で6・3・3・4制となる・市内に新制中学校開校  
1949(昭和24)年 ―― **蛇田村の一部(北上運河以東)が石巻市と合併**  
1952(昭和27)年 ―― 石巻市立湊中学校新築移転  
1953(昭和28)年 ―― 石巻臨港線が門脇魚市場まで開通  
1954(昭和29)年 ―― 石巻市立湊第二小学校新築開校  
1955(昭和30)年 ―― **石巻市が蛇田村と萩浜村を合併**  
1959(昭和34)年 ―― 門脇土地区画整理組合事業着手  
石巻市が渡波町と合併  
1960(昭和35)年 ―― チリ地震津波が発生  
1961(昭和36)年 ―― 石巻バイパス着工と石巻工業港起工式  
1963(昭和38)年 ―― 県石巻工業高・市立女子商業高が開校  
1966(昭和41)年 ―― 石巻市旧北上川右岸で新住居表示を施行  
1967(昭和42)年 ―― 石巻工業港が門脇釜地区に開港・第一船越後丸入港、石巻大橋が架橋、石巻市が稲井町と合併、湊地区に石巻市民会館が開館  
1969(昭和44)年 ―― 開北橋架け替え、東西内海橋に歩道設置  
1973(昭和48)年 ―― **蛇田ニュータウンが完成**  
有料牧山トンネルが開通  
1974(昭和49)年 ―― 石巻新漁港が長浜海岸に開港  
1975(昭和50)年 ―― 浩宮様(今上天皇)が大高森・日和山訪問  
1978(昭和53)年 ―― 宮城県沖地震発生  
1979(昭和54)年 ―― 有料橋日和大橋が開通  
1986(昭和61)年 ―― 石巻文化センターが南浜町に開館  
1989(平成元)年 ―― 石巻専修大学が石巻市南境に開学  
1990(平成2)年 ―― 石巻線駅舎と仙石線石巻駅舎が平面統合  
1998(平成10)年 ―― 石巻市立病院が南浜町に開院  
**三陸道石巻河南IC開通**  
2005(平成17)年 ―― 石巻市と周辺6町が合併  
2006(平成18)年 ―― **石巻赤十字病院が湊から蛇田地区に新築移転**  
2011(平成23)年 ―― 東北地方太平洋沖地震津波が発生  
**石巻法務局が新築移転**  
2012(平成24)年 ―― **新蛇田地区、新市街地土地区画整理事業起工式**  
2013(平成25)年 ―― **新蛇田南地区、被災市街地復興土地区画整理事業。あけぼの北地区、被災市街地復興土地区画整理事業。新住居表示、茜平1～5丁目施行**  
**新住居表示、わかば1～3丁目施行**  
2014(平成26)年 ―― **JR仙石線、仙石東北ラインが全線開通**  
三陸道石巻女川 IC開業  
**新市街地 6地区でまちびらき、「のぞみ野」、「あゆみ野」、「あけぼの北」、「さくら町(新渡波)」と命名**  
2016(平成28)年 ―― JR仙石線、**石巻あゆみ野駅開業**、須江工業団地完成  
2018(平成30)年 ―― **宮城県石巻合同庁舎が新築移転**  
2020(令和2)年 ―― 石巻市蛇田支所・公民館が**新築移転で供用開始**





石巻市案内図 (昭和55・石巻市発行) 地図使用承認©昭文社第 61G029号

## I 蛇田の概要

明治元年、高崎藩取締地、以後、桃生県、石巻県、登米県、仙台県を経て宮城県となる。同22年の市町村制施行に伴い、牡鹿郡蛇田村となる。もともと、西の赤井村、北は鹿股村と接し、東は赤土山下から水押までの広い地域だったが、北上運河以東の明神山、山下、山下西、鍋倉、鍋倉前、南谷地、七窪、横堤、横堤南、揚慮原（うつぎはら）、揚慮原西、深淵、境谷地、清水尻、清水尻西、西中里、東中里、面剣田、水押を昭和24年石巻市に編入。残りの蛇田地区は昭和30年に編入し石巻市大字蛇田となる。

## I 地名の由来

### ① 牡鹿（おしか）郡

古来、この地に牡鹿と牝鹿が睦まじく生息していたが、ある日その牝鹿を失った牡鹿がさも悲しむように泣き続け、倒れて死んでしまった。これを見た里人等がそれを哀れみ、松を植え、その下に屍を埋めたという。この松を「牡鹿の松」といい、そこにある石を「鹿石」と呼び、この地名の由来となった。現在の石巻市湊鹿妻にある洞窟がこの地であるという説もある。

### ② 石巻（いしのまき）

その昔、現在の北上川となる一迫・二迫・三迫川を総じて伊寺川と呼び、その河口を伊寺水門（いじのみなと）、または牡鹿湊と呼んだ。河口付近に広がる草地、荒地を牧と言い、伊寺の牧となり、そこから転訛して石巻となったと考えられる。また、安永の「石巻村風土御用書出」には、「当村端郷住吉町住吉大明神社地わきに、石巻石、石巻淵御座候に付き、その縁を持って村名に唱え申し候」とあり、「巻石」からと言う説もある。

### ③ 蛇田（へびた）

仁徳天皇時代（日本書紀・仁徳55年）蝦夷征伐に遠征した田道將軍が敗れ、大蛇となって敵を破ったという故事から「蛇田道公」と尊称したとする説（宮城県地名考）と、飛んできたツバメが落とした瓜の種を植えたところ、大きな瓜が実りその中から蛇が多く出てきたので村の南西に埋め蛇塚と名付けた。このため村名を蛇多とし、のちに蛇田となったという説がある。

### ④ 小斎（こさい）

江戸初期、丸森村（現宮城県伊具郡丸森町）小斎の、佐藤甚三郎実信の次男・佐藤定信が仙台藩の許可を得て、北上川の改修工事が終わった蛇田の野谷地を開拓するため、松本・太田・宍戸・高瀬・森の家中の他、斎藤・星・伏見・小川・鹿野又・天野・森・遠藤・佐久間・伊藤・氏家・川村などの侍40人と足輕33人、計73人の家臣と家族を従えて入植した。その場所に故郷の名をつけたことに由来する。

### ⑤ 境谷地（さかいやち）

谷地とは、河川や湖沼の付近の低平水湿の地の事で、後に耕土に開拓された土地である。そしてこれらの谷地のほとんどの多くは葦などの生い茂っている湿地帯で、開墾が遅れた場所でもある。したがって、境谷地は蛇田村と鹿股村との境界周辺の谷地からの名前と考えられる。その境谷地が、場所によって、上境谷地、下境谷地、西境谷地となった。

### ⑥ 中埜（なかぞね）

埜は、石混じりの痩せた土質の土地、低く長く続く小丘、微高地という意味である。宮城県内の埜の文字が含まれる多くの地名は、かつて石混じりの痩せ地であったが、今は農地改良が進み良い耕地になった地区が多い。県北に多いという特徴もある。蛇田には、大埜、中埜、下中埜、上中埜、小埜という小字名が存在していた。

### ⑦ 水押（みずおし）

かつて、蛇田村の一部だった水押。水押という地名は県内に18カ所もある。水押とは自然由来の地名であり、河川の氾濫・洪水等で自然堤防などを押し破って民家や田畑を押し流した地域である。また、砂押という地名も同義語と考えられ、どちらも河川流域に多いのは当然のことである。

### ⑧ 高屋敷（たかやしき）

小斎から移植した佐藤家と家臣団が、蛇田地区に家を建設する際、湿地帯の中で比較的微高地であった浜堤に優先して家を建てた。少し高い土地の一体を高屋敷と呼ぶようになった。

### ⑨ 丸井戸（まるいど）

井戸と同義語。人が穴に入り掘った井戸の意味。

### ⑩ 境塚（さかいづか）

蛇田村は牡鹿郡の最西端、須江村は桃生郡の最東端にあたり、両郡境界に築かれた築山に由来し、明治期に郡境標柱が立てられる。

### ⑪ 福村（ふくむら）

蛇田村小斎に入植した家臣団の努力で新田開発が進み米穀の生産高が増して豊かとなった村。

### ⑫ 面剣田（めんけんた）

上毛野田道（かみつけのたみち）將軍が石巻で蝦夷と戦い戦死した場所、顔面に受けた刀傷が死因とされる。

### ⑬ 横堤・新横堤（しんよこづつみ）

蛇田村山下囲の溜池、西方の大沼・横沼の横（東側）に立地することに由来。

### ⑭ 山下（やました）

蛇田村は山間地の少ない農村。蛇田村と門脇村、石巻村の三か村が村境を接する鰐山丘陵地内のうち、唯一蛇田村明神山（鳥屋崎神社）に山間地が有ることから山麓を山下、道路を山下道と称する。

### ⑮ 西前沼・東前沼（まえぬま）

現在の仙石線蛇田駅の西方、赤井村間にあった東西に長い農業用溜池「大沼」と「横沼」の沼の前に由来。両溜池は蛇田村と門脇村が共有したが、北上運河の開削で滅失、門脇村側は門脇字青葉東と青葉西の地名となる。

### ⑯ 閘門（こうもん）

明治政府が明治14年、北上川の蛇田村高屋敷と鳴瀬川の牛網村浜市間に北上運河を開削。前年に高屋敷に石井閘門が完成。閘門設置を機に河川と運河分流点右岸側に付した小字地名。

### ⑰ 南谷地（みなみやち）

蛇田村山下囲の溜池、横沼の南側の谷地に由来。

### ⑱ 山下道（やましたみち）

江戸時代の道路名は行先を以て道路名とする決まりがあり、石巻村立町の西方、鰐山のうち羽黒山や明神山下から禅昌寺に至る道。現在の穀町裏通りと旧三角茶屋から蛇田新橋間の道路を言う。

### ⑲ 高屋敷道（たかやしきみち）

明治初期まで使用された石巻宿から蛇田村への主要道路。蛇田村蛇田町（旭町）を左折し三間堀沿いを西方に進み、蛇田新橋東側・湯殿山神社付近で北側から旧三角茶屋から高屋敷・丸井戸に至る道と合流する。

### ⑳ 鹿股道（かのまたみち）

石巻村から蛇田村丸井戸を経由しないで鹿股村に至る道路。蛇田町（旭町）を通り高屋敷道と分れて北に進み川除土手（土田ヶ渕）に出る。現在の住吉中学校北側の堤防道路で北上運河と石井閘門に通じる。北上川沿いに北上する道路が鹿又道。

### ㉑ 石巻別街道（いしのまきべつかいどう）

明治初期、石巻地方の道路整備で付された道路。ルートは石巻村、蛇田村、須江村、広渕村、北村、前谷地村を経て遠田郡に通じる、現在の国道108号の前身道路。

### ㉒ 加右衛門堀（かえもんぼり）

鹿又村から蛇田村に至る農業用水堀、江戸時代初期に広渕沼（農業用溜池）を完成させた仙台藩士小嶋加右衛門に由来する。

### ㉓ 雷神（らいじん）

蛇田に新田開発で入植した丸森の佐藤定信が、佐藤家の氏神様である神社を一族家臣の家内安全、五穀豊穰を祈願し創建した。その「雷神社」のあった周辺の地名。

## I その他の地名

### ㉔ 向陽町（こうようちょう） ㉕ 沖（おき） ㉖ 清水尻（しみずじり）

### ㉗ 金（かね）沼・上（うわ）沼・下（しも）沼・竜宮（りゅうぐう）沼

### ㉘ 鍋倉（なべくら） ㉙ 揚慮原（うつぎはら）





地図1 「蛇田村縮図」(明治5年・宮城県公文書館蔵)

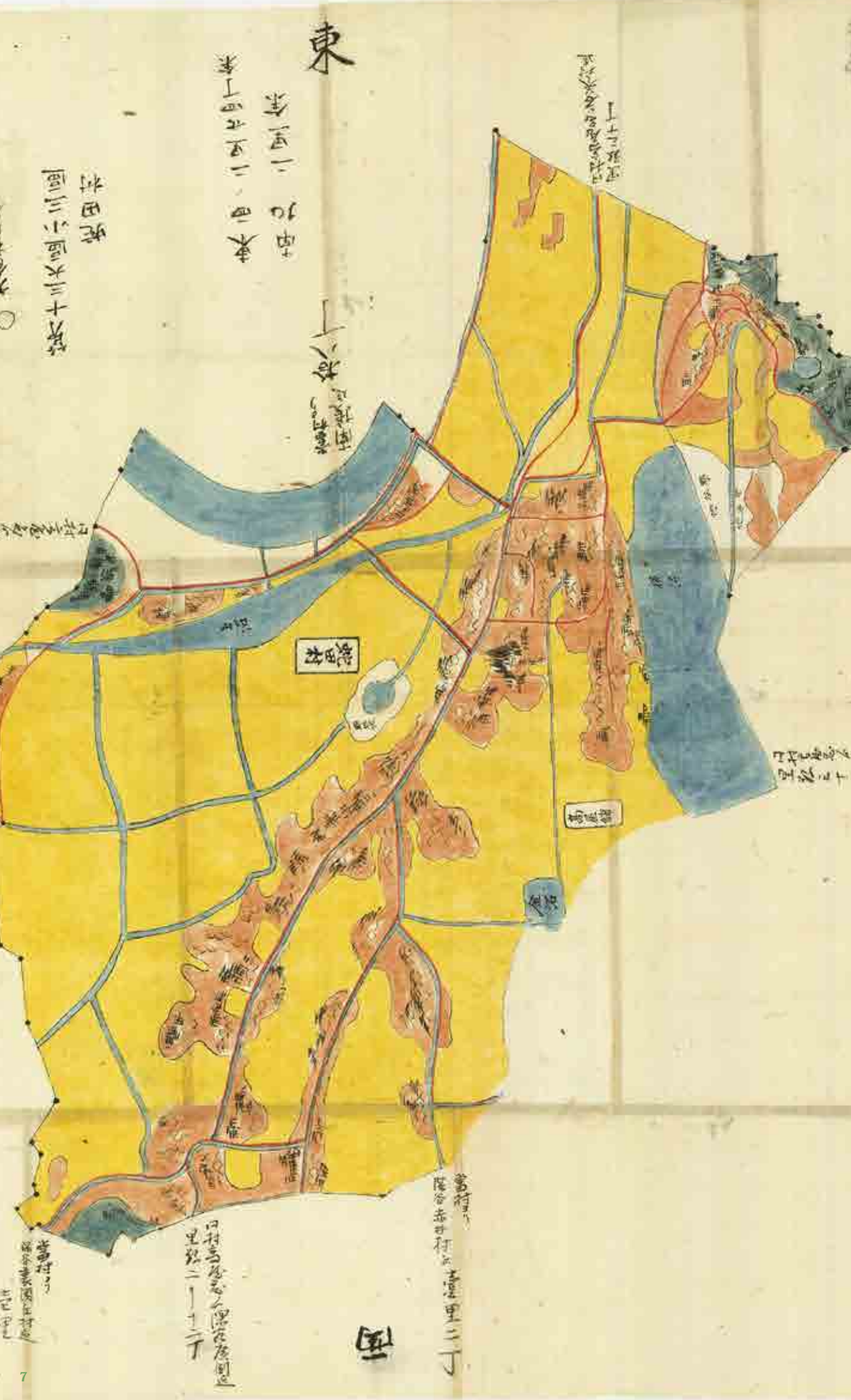
北上川①と運川②。竜宮沼③と金沼④、下沼⑤、堤⑥のほか広大な農地を結ぶ縦横に流れる農水堀。運川に架かる蛇田新橋⑦。高屋敷道⑧・広洲道⑨・和洲道⑩・鹿又道⑪など。山下と高屋敷、福村地区に集中する屋敷・宅地。平坦な低湿地の地形(田畑の農地)を示す「谷地」、「沼田」、「沼向」、「前沼」、「中埜」、「横堤」などの小字が読み取れる。

宮城県庄原郡蛇田村縮図

縮小五分一

北  
上  
川  
運  
川  
竜  
宮  
沼  
金  
沼  
下  
沼  
堤  
蛇  
田  
新  
橋  
高  
屋  
敷  
道  
広  
洲  
道  
和  
洲  
道  
鹿  
又  
道





地図2 「蛇田村絵図」(明治5年・宮城県公文書館蔵)

全国的に共通仕様書で作成された明治5年の村絵図。村の地形と土地利用状況が分かる。藍色は山。水色は沼川・北上川と横沼・下沼。金色は田、茶色は畑、赤線は道路。村内は氾濫を繰り返した北上川が形成した沖積平野・低湿地の農地を占めることが分かる。



地図3 「蛇田村小字図」(明治22年頃・本間英一氏所蔵)

①北上川、②運川(北上運河)、③石井閘門、④水押、⑤蛇田頭、⑥蛇田浦内、⑦蛇田浦外、⑧土田淵(水押堤防)、⑨蛇田堀(三間堀)、⑩旭町(旧蛇田町)など。明治17～18年頃に制定された最初の小字の一部が記載されている。



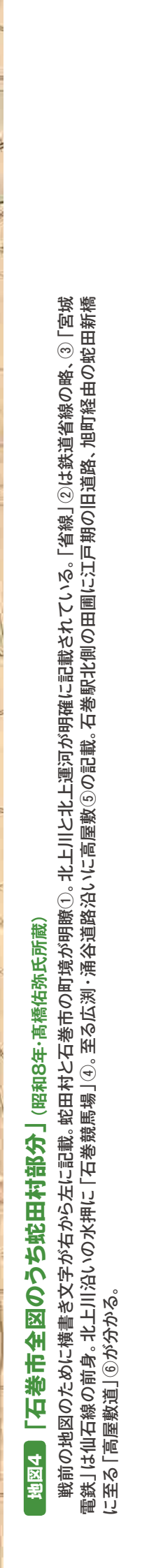
昭和八年現在  
五月份現在

石巻市全圖

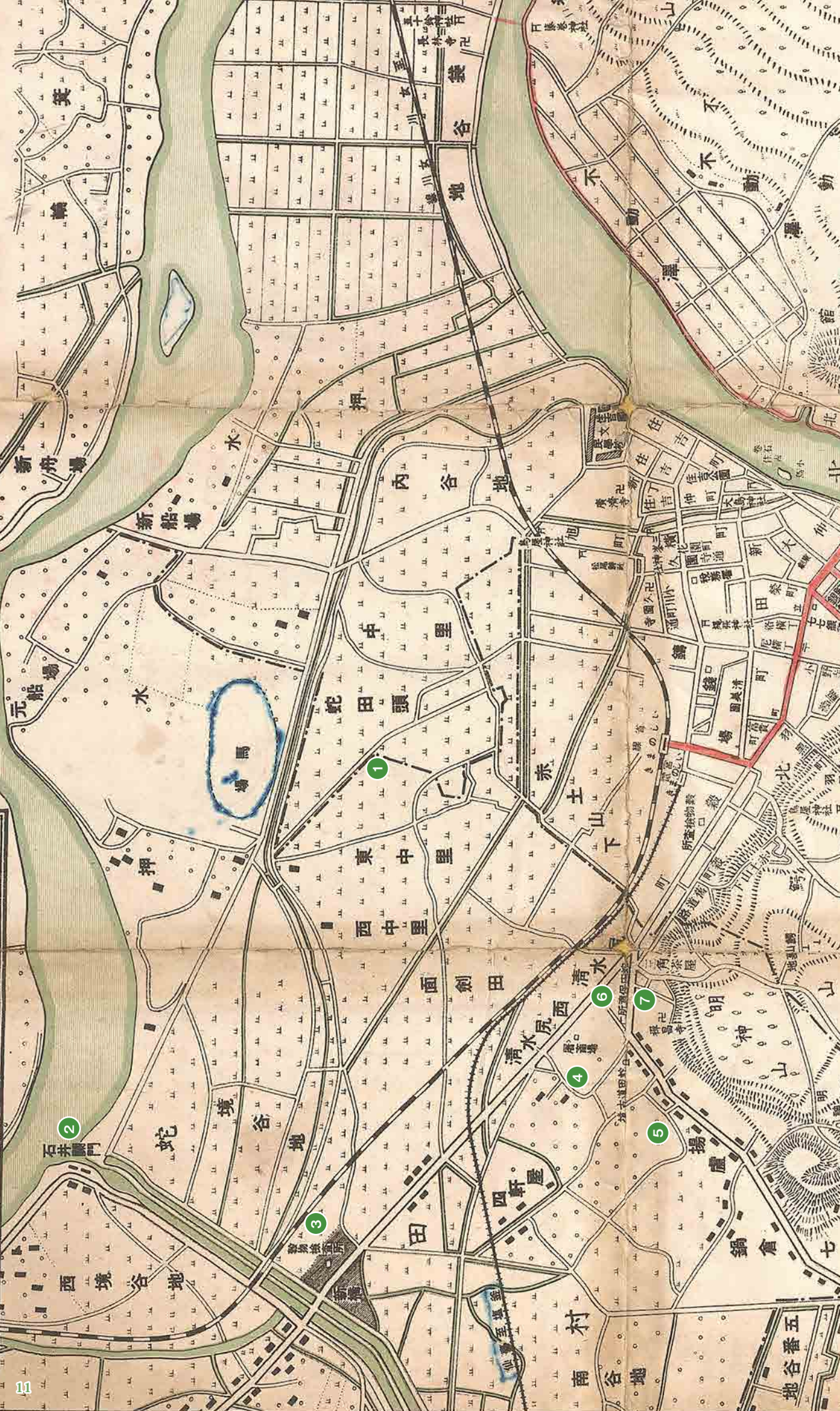
凡

- 市界
- 町界
- 村界
- 分界

1000米  
1000尺

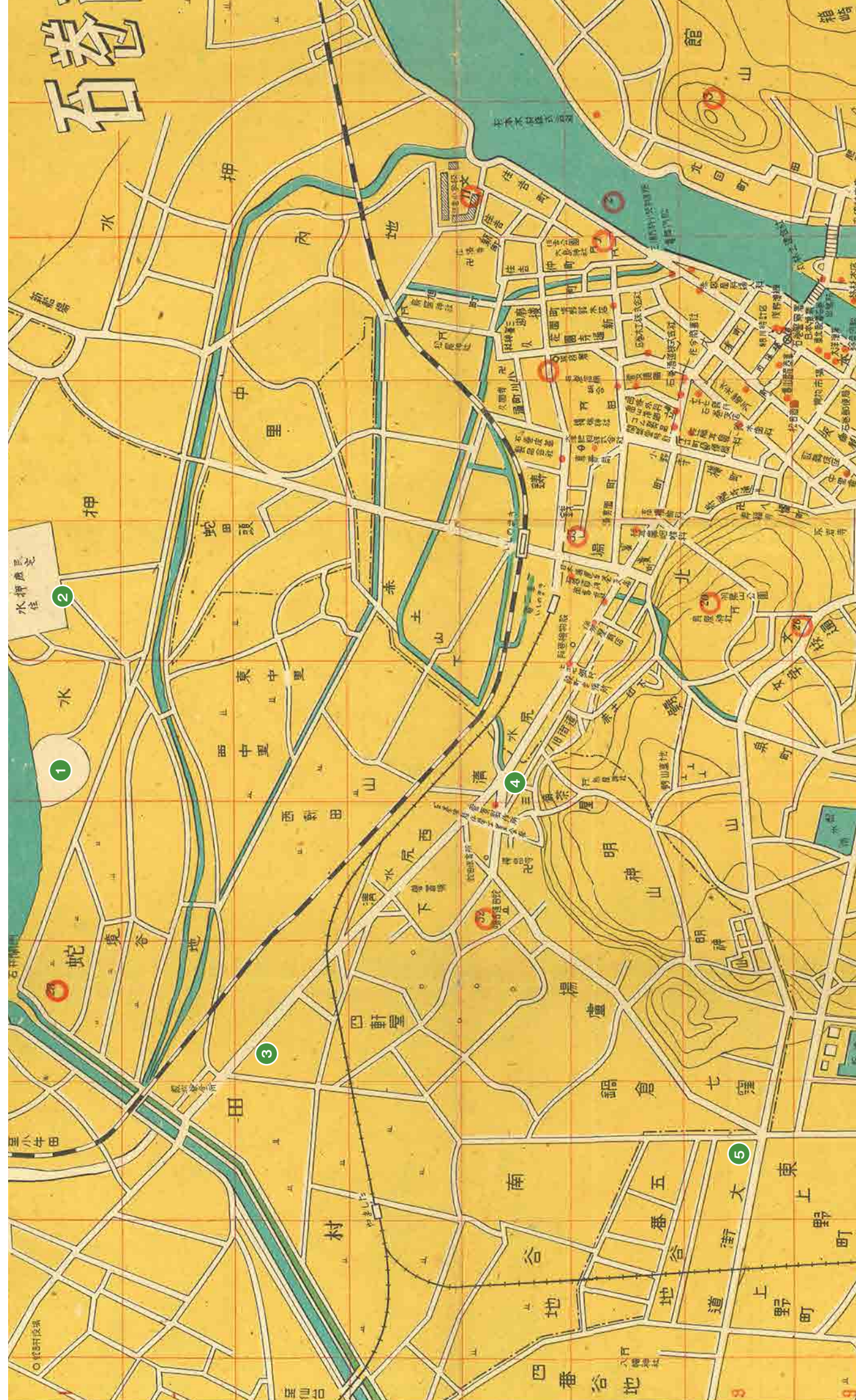






地図6 「石巻市地図」(昭和18年・高橋佑弥氏所蔵)

北上運河以東の蛇田村山下地区(一部)。昭和30年の合併以前で市と村境が分かる①。特に「字水押」は石巻市字水押と蛇田村字水押と2地域に存在する。戦時下のため水押の陸軍施設の工兵隊廠舎の記載が見られない。石井門②・屠畜場③・蛇田道古墳④・保育所⑥・禅昌寺⑦など。



地図7 「石巻街地図」(昭和23年・鈴木紀男氏所蔵)

山下部分合併の前年の北上運河以東の蛇田村山下地区(一部)。大街道道路の北側と北上川の間、山下及び中里・水押地区の地形と道路・水路・鉄路が明瞭。川沿いの日和球場(水押球場)①と村宮水押庶民住宅②、新橋新道路③、三角茶屋④、大街道五差路道⑤以外は大平が田畑の農地である。





地図8 「石巻市合併以前の蛇田村図」(昭和24年・本間英一氏所蔵)

蛇田村山下は昭和24年4月、石巻市と部分合併。同30年1月1日、北上運河以西の蛇田村が合併。蛇田村①高屋敷で村役場・小中学校と周辺農家などの軒数の増加。同じく②中埜、③芋穀町、④境谷地の増加。道路は西部地区で南北道路(⑤沼土手・⑥中江土手・⑦一本杉土手など)と東西道路の整備状況が分かる。芋穀町西方の田んぼに農業ため池の⑧金沼(現蛇田中周辺)が見える。



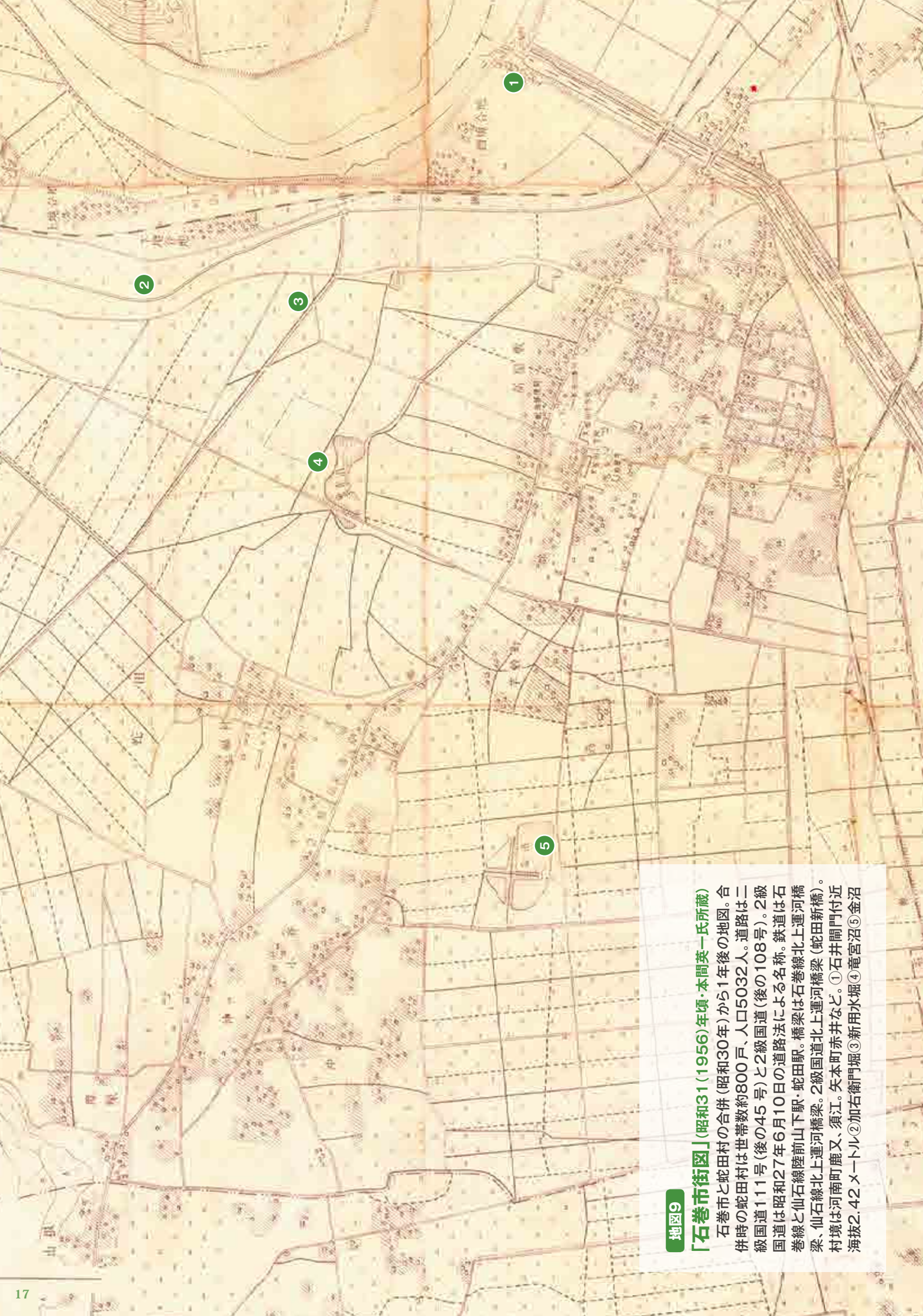
写真1

「北上川と北上運河に囲まれた蛇田地区」  
(昭和27(1952)年・「国土地理院ホームページ」より合成)

右は北上川①、分岐する北上運河。分岐点に石井閘門②、成澤造船所③。上流から南流する加右衛門堀④と新用水堀。右中から左下は北上運河、運河を横切る第一橋梁(蛇田新橋)⑤と第二橋梁(大街道新橋)。仙石線と蛇田駅⑥。蛇田新橋から須江村に至る高屋敷道路⑦(後の108号線)、蛇田小学校と蛇田中学校⑧。竜宮沼跡⑨と金沼跡⑩。蛇田地区の耕地整理が終了、右下の山下⑪・中里地区⑫は未了のようである。







地図9

「石巻市街図」(昭和31(1956)年頃・本間英一氏所蔵)

石巻市と蛇田村の合併(昭和30年)から1年後の地図。合併時の蛇田村は世帯数約800戸、人口5032人。道路は二級国道111号(後の45号)と2級国道(後の108号)。2級国道は昭和27年6月10日の道路法による名称。鉄道は石巻線と仙石線陸前山下駅・蛇田駅。橋梁は石巻線北上運河橋梁、仙石線北上運河橋梁。2級国道北上運河橋梁(蛇田新橋)。村境は河南町鹿又、須江。矢本町赤井など。①石井間門付近海拔2.42メートル②加右衛門堀③新用水堀④竜宮沼⑤金沼



地図10

「旧蛇田村北側の北上川旧流路」(昭和43(1968)年・国土地理院)年頃・本間英一氏所蔵)

現在、目にする北上川(現旧北上川)の流路は江戸時代初期の川村孫兵衛重吉による北上川改修工事により、改修以後の流路と推定。江戸時代の以前、河川勾配が緩く平坦な北上川の下流域、特に佳景山以南は大規模洪水のたびに流路を変えたと考えられる。

旧流路は江戸期の新田開発と溜池利用のために現存しない。地図中の河川西側の農地内の集落「二軒谷地」①と「三軒谷地」②は旧流路の氾濫土砂が形成した自然堤防(微高地)を利用した集落。

※流路は、P19の航空写真参照

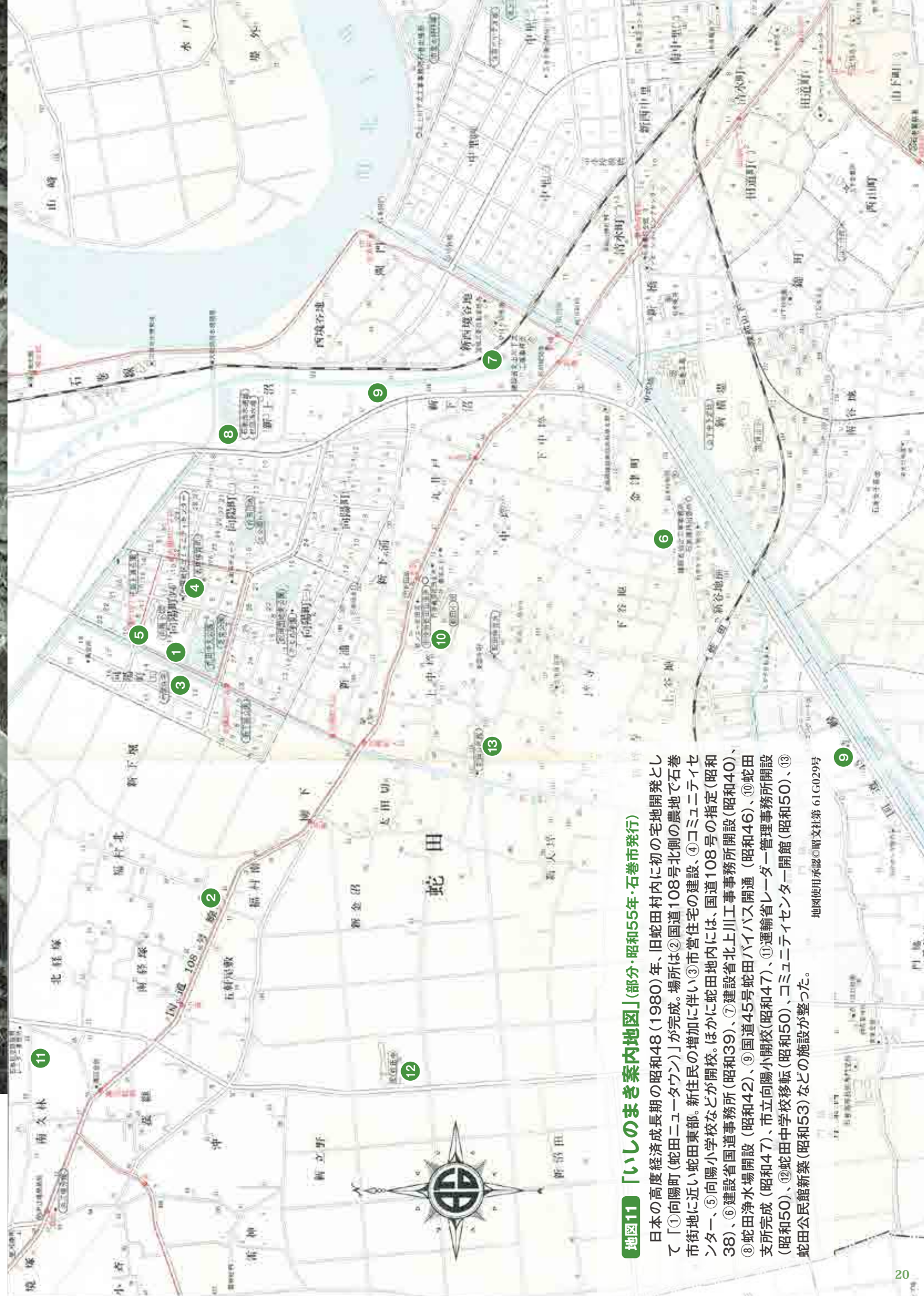




写真2 「航空写真から推定される北上川旧流路」(「わがまち河南の文化財」より)

点線状のラインが江戸時代前の推定流路。鹿又以南で大きく蛇行し、曾波山西付近で現流路に並走し蛇田新橋付近で山下地区を鰐山丘陵地の北側を流下して北上川の右岸の市街地で合流する。江戸時代前の北上川は現在の流路のほか、開北橋下流の大橋地区を南流して合流するなど複数の流れが推定されて現在の一本の流れにまとめたのが川村孫兵衛重吉の工事。

北上川と並走する流路は「加右衛門堀」と「上沼・下沼」の溜池などに利用。鰐山丘陵地北側のうち南中里(三) 東中里(一) 地内は旧流路跡のため市街地で最も低地盤地域である。「宮城県職員宿舎」、「旧石巻合同庁舎」、南側の「旧蛇田堀(グリーンロード)」を事例とする低地盤は旧流路利用の農地と農水路に起因すると推定できる。ベースの写真は、昭和22～23年頃と考えられる。



地図11 「いしのまき案内地図」(部分・昭和55年・石巻市発行)

日本の高度経済成長期の昭和48(1980)年、旧蛇田村内に初の宅地開発として「①向陽町(蛇田ニュータウン)」が完成。場所は②国道108号北側の農地で石巻市街地に近い蛇田東部。新住民の増加に伴い③市営住宅の建設、④コミュニティセンター、⑤向陽小学校などが開校。ほかに蛇田地内には、国道108号の指定(昭和38)、⑥建設省国道事務所(昭和39)、⑦建設省北上川工事事務所開設(昭和40)、⑧蛇田浄水場開設(昭和42)、⑨国道45号蛇田バイパス開通(昭和46)、⑩蛇田支所完成(昭和47)、市立向陽小開校(昭和47)、⑪運輸省レーダー管理事務所開設(昭和50)、⑫蛇田中学校移転(昭和50)、コミュニティセンター開館(昭和50)、⑬蛇田公民館新築(昭和53)などの施設が整った。

地図使用承認©昭文社第 61G029号





地図12

「いしのまき案内地図」(部分・平成8年・石巻市発行)

石巻市東部の農村地帯だった蛇田地区の開発の契機は三陸道路と石巻河南ICの開業平成10)。三陸道石巻ルートは農地が広がる蛇田地区を除いてはなかった。平成5年以降、石巻・河南ICの開設を視野に大型商業施設の蛇田地区進出が活発化。既存の石巻中心市街地と大街道・中里地区などからの商業施設の移転・集積が大きくなる。この時代まで蛇田地区では、①県石巻養護学校開校(昭和55)、②丸井戸地区で新住居表示(昭和58)、③宮城県石巻西高校開校(昭和60)、④須江山浄水場完成(昭和63)、⑤境谷地こ線橋完成(平成2)、⑥水道企業団庁舎完成(平成3)、三陸道鳴瀬奥松島IC開通(平成5)、⑦あけぼの地区新住居表示(平成7)、⑧石巻鹿島台大衛線開通(平成8)などの整備が行われた。

地図使用承認©昭文社第 61G029号

## いしのまき案内地図 石巻市中心図



地図13 「いしのまき案内地図」(部分・平成31年・石巻市発行)

東日本大震災(平成23)発生に伴う臨海危険地域の内陸移転に伴う蛇田西部地区の大規模開発。旧石巻市優良農地転用の最後の開発。商業施設の集積と新住宅地の形成は三陸道を主とする自動車交通の利便性が発展要因。

石巻河南IC開業①(平成10)、特養老人ホーム開業②(平成13)、石井閘門重文指定③(平成14)、平成の大合併(平成17)、石巻赤十字病院開院④(平成18)、イオン石巻開業⑤(平成19)、ロイヤル病院開院(平成19)、三陸道一部無料化(平成20)、曾波神大橋開通⑥(平成21)、石巻法務局が移転開業⑦(平成23)、石巻市内に仮設住宅開設(平成23)、復興庁石巻支所⑧を蛇田に開所(平成24)、新住居表示「茜平」⑨(平成25)、「わかば」⑩・「恵み野」⑪(平成26)、県道石巻女川線開通⑫(平成27)、石巻女川北IC開通(平成27)、「あけぼの北」⑬・「のぞみ野」⑭・「あゆみ野」⑮(平成27)、石巻あゆみ野駅開業⑯(平成28)、県石巻合庁のあゆみ野移転⑰(平成30)など、震災後に急ピッチで街並みが激変していった。

地図使用承認©昭文社第 61G029号



# 地名を探検 蛇田(前編)



蛇田神社には蛇田道公古墳の石碑が建つ  
参考文献「石巻の歴史第三巻」

◆いつからへびたや  
「蛇田」の地名は約400年前の史料に記述があり、江戸初期には使われていたことが確認されている。

足寄上の地名の初見は、寛永8年(1631年)2月10日の「伊達政宗公御朱印」(川村氏蔵)に「蛇田」の文字がある。これは、蛇田村の地名の由来を示している。

◆へびたの地名の由来  
蛇田村の地名の由来は、蛇田村の地名の由来から推測される。蛇田村の地名の由来は、蛇田村の地名の由来から推測される。

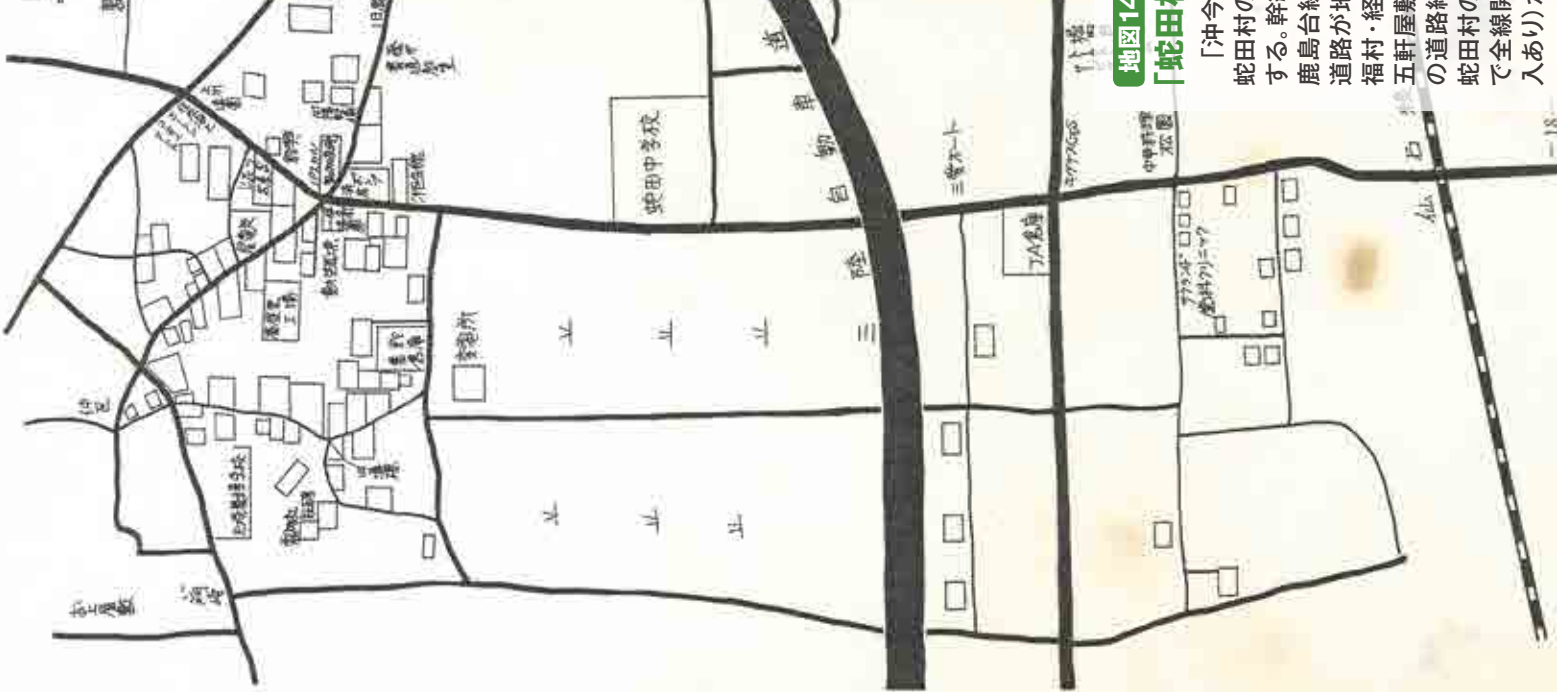


蛇田神社には蛇田道公古墳の石碑が建つ  
参考文献「石巻の歴史第三巻」

## 伝わる2つの由来 田道町に残る蛇田道公古墳

石巻市田道町にある「田道神社」敷地内には、蛇田道公古墳の石碑が建っている。蛇田道公は、蛇田村の地名の由来を示している。

### 最近の区内マップ



地図14

「蛇田村沖区部分図」(昭和初期)

「沖今昔誌」(平成13年刊行)の挿入図。旧蛇田村の西部で旧赤井村と旧須江村と境を接する。幹線道は北西部の国道108号①と県道鹿島台線②、2本の道路から南下する数本の道路が地域を結ぶ。幹線道沿いは字沖を中心に福村・経塚・南久林・境塚・小高・菰野・雷神・五軒屋敷・新金沼地域の農家軒数が分かる。蛇田村の南側に昭和3年に小野〜石巻間開通で全線開通した宮城電気鉄道線(仙石線と記入あり)が記されている。

# 地名を探検 蛇田(後編)



蛇田神社には蛇田道公古墳の石碑が建つ  
参考文献「石巻の歴史第三巻」

◆野谷地開墾に家中と家族移住  
蛇田村の地名の由来は、蛇田村の地名の由来から推測される。蛇田村の地名の由来は、蛇田村の地名の由来から推測される。

◆蛇田村の地名の由来  
蛇田村の地名の由来は、蛇田村の地名の由来から推測される。蛇田村の地名の由来は、蛇田村の地名の由来から推測される。



蛇田神社には蛇田道公古墳の石碑が建つ  
参考文献「石巻の歴史第三巻」

## 侍が開墾時代に合わせ変化するまち 昭和に合併進む町名変更

新田町の町づくりや商業施設が立ち並び、今も開墾が進む蛇田地区。昭和に合併が進む町名変更。蛇田村の地名の由来は、蛇田村の地名の由来から推測される。

### 昭和初期の区内マップ



地図15

「蛇田村沖区部分図」(昭和初期)

「蛇田村沖区部分図」(昭和初期)



写真3 蛇田おもいでアルバム1



▲蛇田小学校運動会(「石巻・桃生・牡鹿の100年」より・大正2年)  
西側校舎2階から運動会会場を見る。奥が石巻方向。校庭の空中に張られた小旗。児童の周囲は児童と保護者席と思われる。



▲仙石線蛇田駅(亀山幸一著「グラビア石巻」より・昭和56年頃)  
宮城電鉄を前身とする仙石線の開業は昭和3年11月の無人駅。上下線の交換駅ではないが手前の線路は待避線か。



▲三種の神器「電気洗濯機」(郷土出版社「石巻・東松島・女川今昔写真帖」より・昭和30年代)  
テレビ・電気掃除機とともに主婦の家事労働を助ける三種の神器として広まった。当時の性能は今と比べものにならないほど低く、脱水機能は、ゴムローラーの間に洗濯物をはさみ、手動ハンドルで回すというものだった。



▲蛇田村役場職員総辞職記念撮影(「石巻・桃生・牡鹿の100年」より・大正2年11月16日)  
この時期は第5代遠藤章平村長の任期満了(明治43/11～大正2/11)の頃、村長退任に伴う職員の総辞職とも推察されるが理由は不明。



▲福村付近から、曾波神山方面を望む(高橋吉雄氏提供・昭和39～40年頃)  
当時広まってきたカラーフィルムによる貴重なカラー写真。福村周辺から北東側を撮影したものだが、冬の時期のため、色合いが寂しいのが残念。



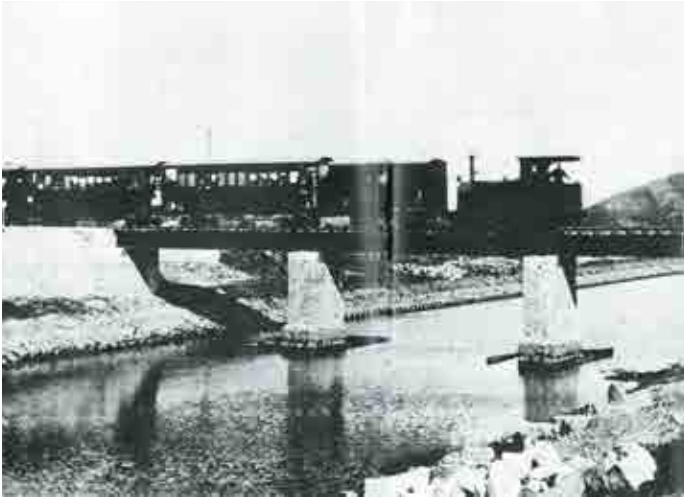
▲現蛇田中学校屋上からの風景(亀山幸一著「グラビア石巻」より・昭和56年頃)  
以前の蛇田中学校周辺は、金沼と呼ばれる沼だった所を埋め立てて学校用地と農地を造成した。写真奥の山は、牧山・湊方面で、中央左奥の木周辺が蛇田新橋から石井閘門付近と思われる。現在は、手前にイオンモール石巻駐車場と三陸自動車道石巻河南I.C. が広がっている。



## 写真4 蛇田おもいでアルバム2



▲北上運河と石井閘門(大正元年・「写真集 明治大正昭和 石巻」より)  
日本初の近代港湾建設であり、明治政府による東北開発の中心的な事業と位置づけられた野蒜築港の関連事業として作られた北上運河は、明治15年に完成(通行開始は14年)。旧北上川と鳴瀬川を結ぶ全長12.8キロメートルの運河で、定川(石巻港)を境に東側を北上運河、西側を南北上運河と区分される。北上川側の石井閘門は、明治13年完成の日本初西洋式本格的閘門であり、現在日本国内で稼動する閘門の中では最古のもので、平成14年国の重要文化財に指定されている。名称は、建設の指揮を執った内務省土木局長の石井省一郎に由来する。



▲仙北軽便鉄道(現JR石巻線・大正2年・「石巻・桃生・牡鹿の100年」より)  
明治42年、政府の改正鉄道敷設法計画から外され、鉄道の利便性から取り残された石巻地方に、私設鉄道の動きが起こり、当時貴族院議員の荒井泰治ら有志による「仙北軽便鉄道株式会社」が設立。沿線の牡鹿郡、桃生郡、遠田郡から寄付金や用地の提供もあり、1912(大正元)年10月28日に小牛田～石巻間が開通。これが現在の石巻線となっている。開業当時の駅は小牛田、涌谷、前谷地(計画では和淵)、佳景山、鹿又、石巻で、蒸気機関を動力とした軌間762mm(国有鉄道は1067mm)の路線だった。小牛田～石巻間の運賃は、30銭とも44銭とも伝わっている。



▲蛇田村宮競馬(大正5年・「写真集 明治大正昭和 石巻」より)  
大正4年、蛇田村遠藤章平村長が会長となって蛇田競馬協会が発足し、個人所有の田圃と村有地の谷地を買収して競馬場を設置。門脇青葉西～蛇田新下前沼～蛇田新東前沼(青葉神社北側周辺)に存在したが昭和4年頃、宮城電鉄(現在のJR仙石線)の線路用地として買収されたため閉鎖された。その後、現在の水押の原野を石巻市が宮城電鉄に貸与し宮城電鉄が石巻競馬場(水押)を建設、宮城県産馬畜産組合に貸与する形で競馬を開催した。この競馬場の呼称は石巻競馬場であるが、他に昭和初期の石巻競馬場(水押)と戦後の石巻競馬場(雲雀野)がある。



▲高屋敷通り(昭和34年・「石巻・東松島・女川今昔帖」より)  
高屋敷は江戸時代の「蛇田村端郷高屋敷」に由来し、蛇田丸井戸から須江村境に至る蛇田村西部一帯を指す。この地は石巻海岸背後の石巻平野を形成する「浜堤」で、現国道108号沿線の高屋敷(通り)は周辺より地盤の高い「微高地」を利用した道路及び屋敷を建築したことによる。



▲蛇田新道と宮城電鉄線ガード(昭和3年以降・邊見清二氏蔵)  
現在のJR仙石線の前身である宮城電気鉄道は、大正14(1925)年6月仙台駅から西塩金駅の間で開業。その後、昭和3(1928)年4月に陸前小野駅、同11月に石巻駅まで全線開通を果たした。蛇田駅と石巻駅間で北上運河を鉄橋で渡り、陸前山下を経由し蛇田新道を跨線橋で通過して石巻駅に向かう軌道が敷設された。写真は、現在の清水町ガード付近で蛇田側から山下側を望む写真である。



▲蛇田新橋の竣工(昭和10年・邊見清二氏蔵)  
野蒜築港計画で開削された北上川に連結する運河に二つの橋が架かる。上流から第一橋、第二橋と命名されたが、設置場所から蛇田新橋、大街道新橋と呼ばれる。蛇田新橋は明治12年に木橋として架橋。写真は昭和10年架橋のコンクリート橋、橋長を短くするため両岸に台場を設置している。



▲蛇田新橋とみこし行列(年代不明・「写真集 明治大正昭和 石巻」より)  
蛇田村の社は曾波神社・愛宕社(曾波山)、鳥屋神社(明神山)、高玉神社(上中坪)、八幡社・神明社(土和田山)、雷神社(祭神は豊稲穂命)など。写真は右奥に曾波山が見える、道路左が蛇田新橋方向。場所は蛇田新橋東側の熊谷製材所付近。写真の行列は鳥屋神社(明神山)の祭礼日の可能性もあり。



▲蛇田ニュータウン(昭和56年・「グラビア石巻」より)  
高度経済成長期を迎え石巻市は産業の発展と人口増加に伴い不動町や水明町で住宅地の造成が始まる。蛇田ニュータウンは蛇田中央部の農地に昭和41年に着工し48年3月に竣工。向陽町1丁目から5丁目まである最大面積の新住宅地は、それまで発展の遅れた蛇田の最初の大規模開発事業だった。



▲異人屋敷(昭和20年代頃・「写真集 明治大正昭和 石巻」より)  
渡辺とら(蛇田村出身)が函館在住のノルウェー人の捕鯨砲手と結婚。屋敷は大正8年、夫の退職後に蛇田に帰郷し新築したノルウェー風の木造一部2階建て建築物。夫妻の死後も住宅として利用されたが、昭和40年代に取り壊された。



▲蛇田村立蛇田小学校(昭和33年・「石巻・東松島・女川今昔帖」より)  
蛇田小は明治6年6月、蛇田村の東雲寺で開校。明治14年、校舎を新築。鉄筋コンクリート造り校舎は大正15年7月に石巻地方に先駆けて新築。昭和30年1月の合併で石巻市立蛇田小学校となる。戦後の学制改革で新制蛇田中学校が小学校隣接地に開校。蛇田中は学生数の増加で昭和50年に金沼を埋め立てた現在地に移転。



▲蛇田村小斎の佐藤家と雷神社(令和元年撮影・石巻日日新聞社提供)  
1649年、伊具郡丸森小斎領主佐藤実信の二男佐藤定信は仙台藩に新田開発を願い出て、牡鹿郡蛇田村高屋敷に開墾地を賜ります。移住の家臣は筆頭家老の穴戸、重臣の森、高瀬のほか、斎藤、星、伏見、氏家、大田、遠藤、木村、小川、高橋など、侍40人と足軽33人、73家中総勢150人余りで、苦難の末に入植から40年余りで400ヘクタールを開墾します。蛇田の雷神社は佐藤定信が小斎から奉持した氏神で、開拓の成功と家臣団の家内安全や五穀豊穡を祈願して建立しました。2004年、子孫の手で再建されました。





写真5 蛇田おもいでアルバム3



▲蛇田支所東側周辺(昭和34年撮影・「グラビア石巻」より)



▲蛇田支所東側周辺(昭和56年撮影・「グラビア石巻」より)



▲蛇田支所東側周辺(昭和34年撮影・「グラビア石巻」より)



▲蛇田支所西側周辺(昭和56年撮影・「グラビア石巻」より)



▲向陽小学校屋上からの俯瞰(昭和56年・「グラビア石巻」より)



▲市営住宅が並ぶ向陽町五丁目(昭和56年・「グラビア石巻」より)



▲向陽五丁目の市営住宅付近(昭和56年・「グラビア石巻」より)



▲旧石巻市蛇田出張所付近(昭和37年頃・武山二郎氏撮影)

写真6 「石巻今はなくなった風景」～蛇田～(写真・文:小松健市氏)



昭35-5 蛇田字境谷地附近にて  
石巻線の踏切より



昭56-8 新西境谷地にて  
見通しが悪くなりました。



昭35-5 蛇田字新下沼附近にて  
のどかでした。



昭56-8 新西境谷地にて  
国道は出来たが土地は荒れる。



昭35-5 蛇田字新刈場附近にて  
牛車があったのです。



昭56-8 新刈場附近にて  
時代の波なのでしょう。





蛇田中屋上から北東方面(昭和56年頃と平成15年・亀山幸一著「グラビア石巻 第3集」)

2019年10月からスタートした『おらほの町の郷土史づくりプロジェクト』は、門脇・湊・蛇田・渡波の4会場で各3回ずつ開催されました。この間、多くの方々から、『懐かしいね〜』、『あ〜、あった、あった』などの声が出て、その時代の記憶を呼び起こし、それらを記録に残す作業にご協力いただきました。時には、自宅にある資料を提供いただいたり、震災でふるさとを離れる友人に教えたいから、資料くださいとお話があったり、予想外の事もありました。

今回、3回のワークショップをベースにまとめた資料と住民の方々からいただいた情報を1冊にまとめ、地域郷土史のひとつとして残したいと思います。東日本大震災と津波の影響で大きな変化を強いられた、この地区の郷土づくりに少しでもお役に立てて、今後の地域活性化を心より祈念しております。

特定非営利活動法人 石巻アーカイブ  
代表理事 小野寺 豊

### 〈参考文献〉

『石巻の歴史』(石巻市)  
『宮城県地名考』(宝文堂刊・菊池勝之助著・昭和45年)  
『十條製紙石巻工場50年史』(同編集委員会編・平成2年)  
『グラビア石巻』(亀山幸一著・昭和56年刊)  
『続 グラビア石巻』(亀山幸一著・昭和59年刊)  
『グラビア石巻 第3集』(亀山幸一著・平成15年刊)  
『写真集 明治大正昭和 石巻』(国書刊行会・昭和55年刊)  
『紅海心―稲井三治翁の八十八年―』(亀山幸一著・昭和63年刊)  
『石巻・東松島・女川今昔帖』(郷土出版社刊・平成21年刊)  
『宮城三陸・登米の昭和』(いき出版社刊・平成2年刊)  
『石巻・桃生・牡鹿の100年』(郷土出版社刊・平成12年刊)  
『石巻今はなくなった風景』(小松健市著・昭和56年刊)  
『石巻今はなくなった風景2』(小松健市著・昭和57年刊)  
『わが町河南の文化財』  
『沖今昔録』

### 〈資料提供・協力〉

・阿部 和夫 氏 ・石巻市  
・木村 敏郎 氏 ・(株)昭文社  
・亀山 幸一 氏 ・(株)石巻日日新聞社  
・鈴木 紀男 氏  
・本間 英一 氏  
・浅野 太一郎 氏  
・邊見 清二 氏  
・菊田 貞吾 氏  
・高橋 佑弥 氏  
・高橋 吉雄 氏  
・武山 二朗 氏  
・宮城県公文書館  
・国土地理院  
・(株)七星社

## 写真と地図で見る歴史 『蛇田事典』

【非売品】

(おらほの町の郷土史づくりプロジェクト報告書)

【編集】特定非営利活動法人 石巻アーカイブ  
【執筆】邊見清二・小野寺豊  
【発行】令和2年3月

※本報告書は、令和元年度石巻市心の復興事業補助金で制作しました。